

地域連携による観光とまちづくり
コミュニティ再生講座 第4回目講演録 (ダイジェスト版)

平成25年12月13日(金) 18:15～20:00
網走エコセンター

●司会 (中川)

第4回目の最終講座ですが、本日の講師の清水先生におきましては、天候の影響により来られなくなりました。また、水谷網走市長も急遽公務の関係で来られなくなり、中身の無い講座となりますことを、主催者として深くお詫び致します。

そこで、本日は網走市役所観光課の田口課長にお越し頂きましたので、網走市における観光の取り組みをご報告頂いて、意見交換をしたいと思います。

(網走の外国人観光対策の取り組み)

●網走市・田口

網走市観光課の田口です。網走市における観光施策についてお話をします。

(網走観光)

網走の観光は、昭和35年に周辺が網走国定公園に指定されたことから、名勝指定の天都山、小清水原生花園等の景観を武器に観光をしてきましたが、昭和60年に女満別空港がジェット化となり、それまでの夏観光に加えて、冬観光にも取り組むこととしました。昭和60年4月にオホーツク流氷館が現在地に建てられましたが、この立て替えが決定され平成27年にリニューアルオープンの予定となりましたので、PRさせて頂きます。また、平成3年に、道東観光開発さんがオーロラ号を就航したところ、一気に冬観光に来られる方が多くなり、平成4年にピークを迎えることとなりました。

しかし、観光客は入り込み数も宿泊者数も減ってきている状況にあり、この原因の一つとして「全国、皆観光地化」があると思います。網走は、昭和35年以来景観観光をしてきましたが、最近では景観が無くても観光が出来るという状況にあり、現在はいろんな観光をつくり売って行くということで、どこの自治体も経済状況が厳しい中で観光に力を入れてきており、反動で、元からある観光地が厳しくなっている状況にあります。また、娯楽の多様化で、昔のような「娯楽＝観光」という状況ではなくなっています。さらには、網走では平成17年・18年に流氷が来なかったこともあり、「流氷が来ないのでは？」と1月や3月の観光は敬遠され、2月の巾の狭い時期に集中するということになっています。その後、東日本大震災の影響で底を打った後は、少し入り込みが戻ってきていますが、本当に回復していくのかどうかという状況です。

(外国人の入り込み)

外国人観光客の宿泊数については、平成12年に各種の規制改革があって外国人が来

やすくなったこともあり、平成13年頃から増えています。平成12年度迄は千人台であったものが平成13年度には1万人を越えて、さらに平成22年度には2万人を突破したところで、平成23年に震災があって落ちた状況になってはいますが、今年度は平成22年度の数値を超えたいと思っています。

外国人観光客の多くは、台湾・香港あたりから早くから集客されていましたが、中国も平成20年・21年頃から伸びています。原因としては「フェイチェンウーラオ」という中国映画が道東の夏の景観の中で制作されて大ヒットしたということがあり、網走では北浜駅や能取岬ですが、映画の中心的なシーンで使われていて、今でも中国人観光客が来ていますけれど、震災以降、他の地域に比べて道東にはあまり戻って来ていない様に思います。尖閣の問題が落ち着けば、伸びてくるかなと期待しています。

韓国は、ダメで、震災の影響が強く殆ど戻って来ていません。その他では、シンガポール等の東南アジアです。ただ、シンガポールの観光シーズンは5～6月・11～12月になっていて、なかなか売り込みにくい状況になっています。あとは、タイとインドネシアですね。タイ人は「兎に角、北海道に来たい。」という人が多いので、プロモーション次第ではこちらに呼べるのではと。次には、インドネシアが期待されており、道東で組織されている「東観協」等を使ってプロモーションをしたいと。

(外国人誘客施策)

「外国人観光客誘客施策」についてです。

はじめに、外国人観光客誘致対策プロモーション事業ですが、水谷市長が会長で、網走市・北見市・大空町・小清水町・斜里町・美幌町の6市町で構成しているチャーター便誘致協議会というところで、女満別空港への国際チャーター便の誘致と併せて外国人観光客の誘客をしようとプロモーション活動をしているもので、近いところでは、この11月末に大空町長をリーダーにして行って来ました。

次に、招聘事業ですが、旅行エージェントや雑誌・TVなどのメディアを呼んで、こちらを見て取材してもらって旅行商品の開発とか情報の発信をし、集客しようとするもので、帯広市・音更町・斜里町・網走市で協議会を作っています。昨年は、台湾のサイクリング団体を招聘しました。

チャーター便誘致対策補助金ですが、平成18年頃には、台湾の中華航空が定期的にチャーター便を飛ばしてくれていたこともあって100便の就航があったが、平成20年のリーマンショックで途絶えています。何とかチャーター便を回復したいということで、女満別空港入りして網走に宿泊した場合には一人2千円を送客のエージェントに支払うという補助制度を設けています。

その他、観光情報発信事業では、中国圏からの観光客が多いので台湾人を雇って観光協会に委託して、ブログ等を使った情報発信をしているし、パンフレットやホームページの充実も行って来ています。

今後、観光客が増えるように、もっと広域でPRをしていかなければならないのではと考えています。網走市は、チャーター便誘致協議会でオホーツクの一員としてやっているけれど、外国人には日本・北海道という中のオホーツクだけでは狭いので駄目です。来年は、広く、例えば釧路とか釧網線を活用した旅行商品を作るとか、更に広域な取り

組みが必要と考えており、東観協とかと一緒に広域でプロモーション活動をやっ
て行きたいと考えています。

(フリーディスカッション)

●中川

では、ここからはMOTレール倶楽部会長の石黒さんとともに進行をして行きます。

●石黒

今日のテーマは「外国人観光客が求めるもの」ということで、清水先生からプロモ
ーション事業等についてのお話を聞ける思っておりましたが残念です。そこで、外国人観
光客に関して何か具体的な取り組みの要望だとかがあれば、意見ををお願いします。

●発言者 1

外国人が日本に来て困ることに、インターネット接続がなかなか出来ないことがある
と思います。まだまだ規制がきつく、外国人が日本に来てスマホや携帯電話を借りるこ
とが難しい状況ですが、そこで、網走のW i f i フリースポットを検索してみると、ホ
テルにはあるようだがその他は意外と少ないですね。網走市として、駅や観光地等にこ
れを増やしていくような計画があるのかどうか、お聞かせ下さい。何処かの飲料自販機
に、W i f i 機能がついているのもあるようなので、この設置に補助をだすとか。

また、看板でも、各国語に対応するのは大変なので、W i f i を活用した位置情報の
検索が活用出来れば便利だと思いますが。

●網走市・田口

なかなか普及していない状況だと思います。

●石黒

流氷砕氷船に乗ると、流氷ガラス館のところで手を振っているのが見えますが、そう
いうことで外国人観光客の来店が増えてくるのかなと思いますが、どうでしょうか。

●発言者 2

結構入って来ています。手を振るのは目に見えるので、とても良いことだと思います。

●網走市・田口

来年は、7月から9月までの毎週木曜日にサンクルーズ客船が入って来ます。満席で
2000名ですが、平均で1500名の乗客の内、7割が日本人で残り3割が外国人で、
外国人の内半分が英語圏の人で後は中国圏と言われていますが、その外国人に不自由な
く網走を回って貰えるような仕組みを考えているところです。

●発言者 3

観光客は、外国人よりも日本人の方が多いと思いますが、その時にオホーツク圏をPRしてリピーターになって貰う様な取り組みをしなければならないと思います。今回の講座にもある「地域連携」ということで、一つの網走だけではなくて女満別・北見などを含めたオホーツク圏としての対応、近隣が連携しての対応が必要ではないかと思いますが、地域連携に関する網走市の考え方はどうなんでしょうか。

●網走市・田口

地域連携を大きい意味で考えると、外国人観光客の誘客については、女満別空港チャーター便誘致協議会というので網走が中心となって近隣地域とも協力してやってきましたが、もっと広く知床や釧路等を含めてやっていかないと全く目立たないので、そういった広域での取り組みをしていきたいと考えています。

●中川

「包括交流連携協定」というのがあります。これは、北海道が仲介役となって、地域特性の異なる市町村同市が相互に連携し補完し合いながら、産業・文化・スポーツ等の日常の交流によって地域の活性化を図るとともに、災害時における相互応援をも想定した幅広い交流を目指す取り組みですが、その様な相互連携を北見と網走の間でも深めていくべきではないかと考えており、中でも観光は取り組みやすいのかなということで、この講座のタイトルにもいしてみました。皆さん方はどのようにお考えでしょうか。

確かに昔は、網走と北見の仲が悪かったようですが、今はそんなことを言っている場合では無いと思います。人口が減少し経済も先細りするなかで、自分達の街だけが良くなればということではなく、出来るところから近隣が連携していくべきだと。

●発言者4

前回の清水先生の話では、このオホーツク圏全体が豊かに良くなるためには、一つ一つの街・自治体に磨きを掛けて光らせて、それを線として繋いで行って面にしていくなだという話をされていました。その時に線になる北見と網走を結ぶのが石北本線ではないかと思いますが、それがこの地域に必要であって、それを軸に活性化をしていくべきだ、というのが先生の話の内容だったと思います。そんな時、石北線利活用推進協議会の設立に向けた動きが出てきているのは、大変良いなあと思っているところです。

釧網線で通っていた当時、乗客の半分くらい外国人が乗っていましたが、その時に、斜里駅で切り離しの列車であるにも関わらず外国人に案内されていないために、斜里駅で外国人が慌てていました。それで、私は片言の英語でそのことを教えていましたが、そういったことも一つのお持て成し・サービスになるんだと思いますので、観光列車を走らせるばかりでなく、普通の列車でも住民の案内役などアテンダントの配置だとかでも、観光サービスの向上が図られるのではないかと考えており、それを、石北線でも出来ないかなと思います。それから、JR東日本あたりでは路線に愛称を付けていて、例えば、陸羽東線だと「奥の細道湯けむりライン」とか、八戸線だと「八戸海猫ライン」とか、大船渡線だと「ドラゴンレール大船渡線」とか付いていますけれど、この石北線に、この地域性をパッと示せるような名称が付けられたら良いなと。それを共通して使

っていくことで地域のイメージが出来てくるのかなと思います。

●石黒

石北線を何とか盛り上げていこうと、今、組織作りをすすめているところで、鉄道にプラスしてバスとかタクシーとも連携して北見・網走で地域を盛り上げていければなと思っています。

●発言者 5

来年のチュウリップの咲く頃に、「誌のボクシング」の全国大会をこの地でやろうとしており、これに全国から来て欲しいのと、来るだけではなくて2泊3泊してオホーツク管内を見て欲しいと、パンフレットとかオホーツク圏のお勧めスポットの紹介などしていますが、この地域の観光情報がネットで検索できるようになればいいかと、早く作って欲しいなと思います。ボクシングの大会規模は、過去の全国大会優勝者などから16人の選手と、その方々の応援者やファンなどが全国から大勢来ますので、周辺を観光して帰って欲しいと思っています。

●発言者 1

今に関連して、今、ビッグデータの活用ということが言われていますが、それと対で、オープンデータというのがあって、行政あたりが持っている各種データを他のプログラムと連携して公開して行こうとするものですが、それをやることによって、先ほどの観光イベントについても、そういったデータの情報を行政側が必ず何処かに入力しているはずなので、そこに他からもアクセスすることで表示出来るようにすれば、手間を掛けずに使いやすいものが出てくると思います。何処がやるかの問題はありますが、是非自治体に取り組んでほしいと思います。

●発言者 4

今、網走ではスポーツ合宿の誘致というのを盛んにやって、その経済効果も大きいということですが、そういったプロではなくて一般の方々がやられている大会を見に来るついでに、宿泊や観光・飲食をして貰うという仕掛けを作っていくべきかなと思います。有望なのが今後、市街地に近い網走の市民プールが大会もできる公認プールとなって通年化されるという報道がありますが、そこでマスターズの競技会が出来るのではと。マスターズの方々はお金持ちで、全国で行われる大会を探している状況なので、それを観光の端境期にやれば、経済効果も高いものになると思います。外貨を稼げるものにして欲しいと。そういった観光を広く考えて行って欲しいと思います。

●発言者 6

北見のカーリングホールは、宿泊施設の無いカーリング殿堂の地に建ててしまっており、国際大会も困難な状況になると思うので、そういった二の舞にならないような場所に建てるべきだと思います。

また、網走の監獄博物館だけは、昼ばかりではなくて夜もあそこに泊まれるようなこと

も考えてよいのではと。

●発言者3

基本的なこととしては、「観光戦略室」みたいなところが無ければ駄目だと思います。いろいろと話が出ていても、何十年経っても変わらない状況があって、ちっとも形になっていない。いつも、話だけで終わってしまう。形にするような話を、数人が集まって議論し、行政とも協調しながら考えていかないと、来年も5年後も同じようなことを言っていて前に進んでいないと思います。例えば、行政や民間から能力のある人を出し合っていてという中で考えていく必要があるのではないのでしょうか。

また、網走は、少なくとも北見よりは滞在型観光の重要地になっているけれど、それを網走だけでやっていくというのは駄目だと思います。近隣自治体と一緒にあって、そしてオホーツク全体や道東地域へ、そして北海道へという考えでやって行くべきだと考えますが、それを誰がやっていくか。それを考えていくのが大事だと思います。

●発言者7

今の話が一番大事で、地域づくりを「誰かがやってくれる。」ということからの脱却だと思います。気づいた人達が、「自分は何が出来るだろうか？」ということを考えて着手をしていくことが大事だと。

この講座は、北見と網走が連携して「観光とまちづくりをしよう」ということを主眼にしていますが、来年はこれを基盤にして、「自分たちには何が出来るか。」を具体的なアクションで示していく場面に来ているんだと思います。それが出来れば、行政や他の民間との連携も旨く出来てくるようになると思いますので、自分たちで出来ることを少しでもやっていくことが大事だと。

今回話が出ておりました「石北線利活用推進協議会」は、設立までには至ることができない状況ですが、来年も北見や網走などの方々が協力して出来そうなことがありますので、その中で具体的な動きを示していくことが大事だと思っています。

●中川

私自身も「まちづくり会」をやっていますけれど、これは、「住民が主体となって街を作っていく。」「住民が主役でなければいけない。」ということですが、自分たちだけではできないので、官と民が連携してやっていくということで、基本的には住民による「住民自治」だということです。行政は「団体自治」ですが、これらが合わさって「地方自治」というものになると考えています。住民が待っているだけではなくて、やれることは住民がやる、行動するとういうことが大事で、皆が話し合ってスパイラルアップしていくことが重要だと思っています。

今日は、講師の方が天候の影響で来られませんでした。そのことにつきまして主催者として改めて深くお詫びします。講座の時間が短くなりましたが、この辺で終了とします。ありがとうございました。